

新潟産業大学

2. Revival Vision 2020



新潟産業大学
Niigata Sangyo University

(1) Mission/Vision/Value

1. Visionの基本理念・コンセプト

～産官学協働の地域実践教育大学～

グローバル時代における地域の産業・文化の振興と、
地域社会が抱える課題解決に取り組む。



2. 基本理念の根拠である本学の原点とこれから目指すところ

建学の精神／教育理念／教育目標	
精神	人格の陶冶を通して主体的自我を確立し、 新しい時代感覚 をもって社会に貢献する人間を育成する。
理念	高度な専門知識と応用能力の涵養に努め、併せて、広い視野で思考できる豊かな教養と高い道徳を身につけた、 地域社会に有為な人材 を育成する。
目標	<ol style="list-style-type: none">自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立した人間を育てる。学問の基礎を固め、幅広い教養を身につけ、急激に変化する社会に主体的に対応できる人間を育てる。実学教育を通じ、自らが社会の一員であることを自覚し、地域社会に貢献する人間を育てる。

なぜ地域教育か？ なぜ実践教育か？

本学はもともと、公私協力方式で設立され、以来40年、柏崎の土地で上記のように、**地域に根差し、地域に貢献する人材育成**を理念としてきました。ただ、地域に貢献できる有為な人材と言っても、近年の社会の変化は一段とその速度を増しており、その変化をとらえながら地域に貢献できる人材育成は、実際には非常に難しいということを痛感しています。

「地域教育」というのは、題目としては響きも良く有意義なように聞こえますが、具体的で実践的でなければなりません。そのために行う教育も、実際に地域が抱える課題を、時代時代に合わせて取り上げ、実践を通して解決する「実践教育」こそが求められます。

社会の変化に対応しながら、常に**新しい時代感覚**をもって**地域社会に貢献できる人材の育成**は、まさに**本学の建学の精神**に沿うものであります。そこで、これからの本学のVisionを描く中で、「**地域教育**」という本学の原点に回帰し、「**実践教育**」を強化するとともに、急激に変化する社会の中で、本学自身もその経営、運営に新しい時代感覚を取り入れ、古い過去は捨て去り、今まさに**生まれ変わること**を宣言します！

本学の目指すべきところへは、地元産業界と地元自治体の協力なくしては到達することができません。

地域の産業界、行政、そして本学が連携し、協働で地域の発展を目指していくことが必要です。

それが、産官学協働の地域実践教育大学「新生新潟産業大学」です！

2. 基本理念の根拠である本学の原点とこれから目指すところ



1年次から地域ゼミ！授業の50%はフィールドワーク！



扱うテーマは「今」地域が抱えている課題！



その場で解決できるものは即実行！



地域振興プランの実行の担い手も自分！

リアルタイムの課題を取り扱い、地域振興プランの実行まで担わせるので、
教員も常に真剣勝負！！



3. 基本理念に則った、3つのValue

- 1 地域課題の研究・教育
- 2 地域振興への参加
- 3 地域の未来人材の育成・輩出

基本理念・コンセプトを実現するために、地域課題解決をキーワードとした3つのバリュー(価値)を提供します。

その成果によって、新潟産業大学は、地域とりわけ柏崎市においての、ひと・知恵・資源の循環形成の一翼を担い、「子どもたちが誇りと愛着を持ち」「若い世代や女性から選ばれ」「高齢者がいきいきと暮らす」地域づくりの実現に貢献し、真に地域に求められる大学に生まれ変わります。



- 1 ★柏崎の頭脳として★
「Think tank」
- 2 ★柏崎の身体として★
「Do tank」
- 3 ★柏崎の未来として★
「Talent tank」



3. 基本理念に則った、3つのValue

1

地域課題の研究・教育

- ▶全教員が、「地域」を研究テーマとします
- ▶地域研究で外部資金を獲得します
- ▶授業で扱う題材は、地域の抱える課題とします
- ▶授業は地域でのフィールドワークとします
- ▶地域の生涯学習拠点として機能します
- ▶地域のボランティア拠点として機能します
- ▶リーダー塾、たまご塾へ研究成果を還元します
- ▶地域行政へ研究成果を還元します



柏崎で、今起きている重要課題解決のためのThink tankとして、全教員が地域研究に携わり、学生を教育し、真剣勝負します！

2

地域振興への参加

- ▶地域産業にフィールドワークで貢献します
- ▶地域産業の繁忙期に授業の一環で支援します
- ▶地域行事の実行委員として参加します
- ▶地域ボランティアとして参加します
- ▶地域コミュニティへ参加します
- ▶公認課外活動は、地域振興に貢献します
- ▶留学生が地域の国際交流をします
- ▶学生教職員が地域エバンジェリストになります



柏崎にとって、地域振興を支える最大のDo tank(労働力)として協力し、なくては物事が回らない存在になります！

3

地域の未来人材の育成・輩出

- ▶地元の人間を育成し、地元で活躍させます
- ▶他地域の人間を育成し、柏崎に定着させます
- ▶留学生を育成し、柏崎に定着させます
- ▶他地域の人間を、柏崎のアンバサダーとします
- ▶留学生を、柏崎のアンバサダーとします
- ▶地域課題に取り組む社会起業家を輩出します
- ▶卒業生の地元コミュニティを構築します
- ▶市民が地元で生涯学ぶ場とします



柏崎にとって、自ら未来を切り拓き、新しい産業に貢献する人材を生み出すTalent tankとして、未来拠点になります！

(2) 教育の骨子

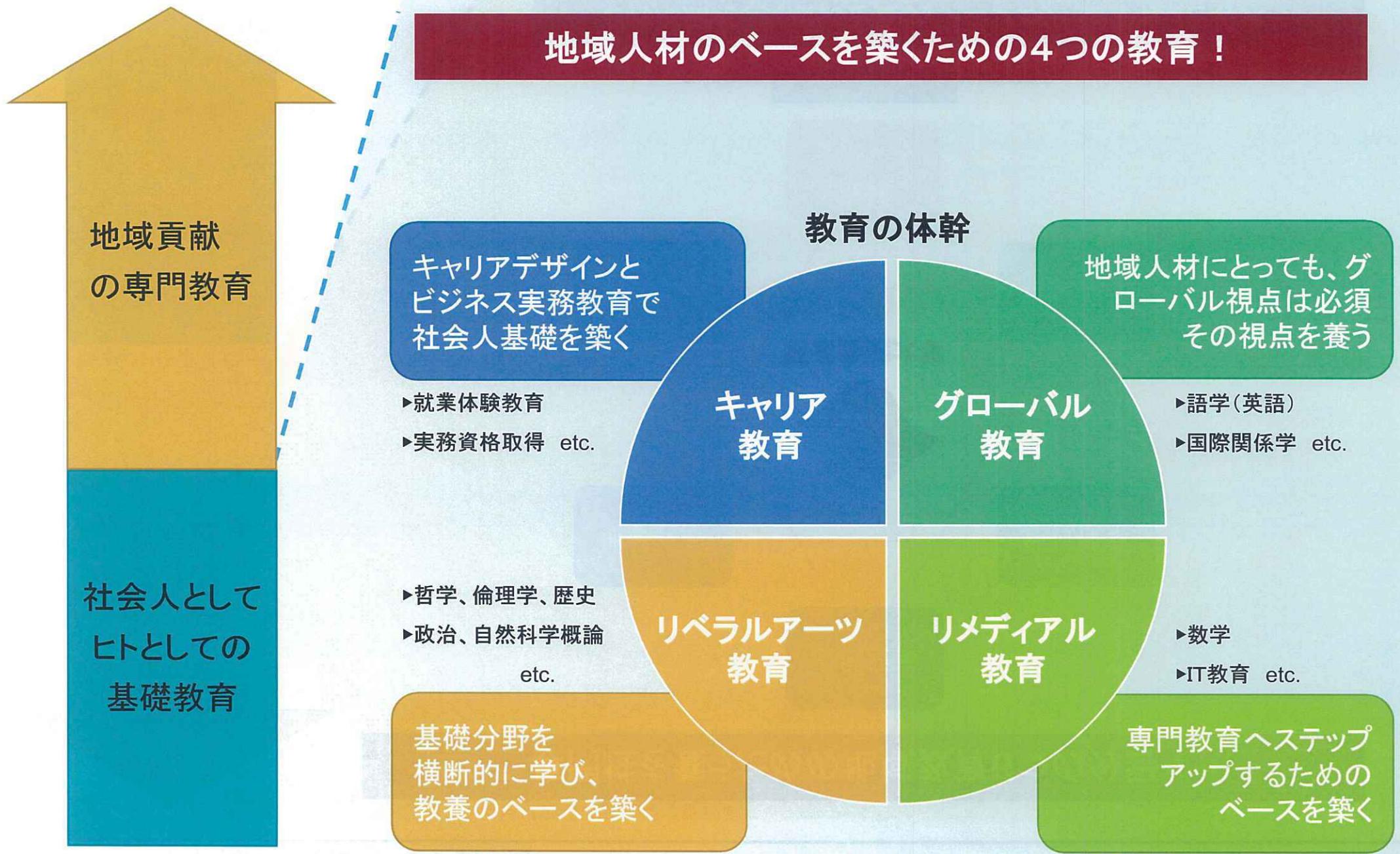
1. 教育目標＝輩出する人材像



- ▷ 地域課題発見能力
- ▷ 地域課題解決能力
- ▷ 地域振興貢献能力
- ▷ 地域産業イノベーション能力
- ▷ 地域産業マネジメント能力
- ▷ 地域社会起業能力 etc.

- ▷ 英語教育、グローバル教育
- ▷ プレゼン、ディスカッション
- ▷ キャリアデザイン
- ▷ ICT／情報リテラシー
- ▷ 基礎教養 etc.

1. 教育目標＝輩出する人材像



1. 教育目標＝輩出する人材像



専門性を養うための地域教育6つの分野！



これに加え、実践力を養う『プロジェクト型学修』を導入！

1. 教育目標＝輩出する人材像

1年次からの徹底した『プロジェクト型学修』により、実践力の抜きん出た人材を育成！！

※「プロジェクト型学修」については、本資料の30ページを参照



自ら発言し、意見交換をして、
決断できる人材



自ら動き、コミュニティを形成
できる人材



自ら社会に発信し、
協議して物事を実現
できる人材



- ▷ 地域に根差した教育を基本とし、
奇をてらわずに基本を身につけさせる。
- ▷ 教育方法は徹底的にアクティブラーニング
- ▷ 本学独自のプロジェクト型学修

2. 地域教育の6本柱

柏崎市およびその市民が抱える課題を題材に取り扱い、将来的に行政の一員として活躍する人材を育成します。
公務員を目指す人材、社会起業家を目指す人材を育成支援します。
エネルギー政策や危機管理等、現代社会が抱える課題でありながら、柏崎の地には、その題材が多くあります。これらを実践的に学べる仕組みを構築し、そこから行政人や社会起業家を育成します。

柏崎市における産業を取り扱いながら、基本的な経済理論をしっかりと学び、地域産業で活躍できるビジネスパーソンを育成します。
地域企業と連携した講座を設定し、実践的なビジネススキルを身に着けます。
地域企業へのインターン等を通じ、就職枠を設けて本学と企業とのwin-winの関係を構築します。

柏崎市の歴史や自然環境について学び、魅力の再発見をして、その資産を各方面で活用できる人材を育成します。
有形の文化、自然はもちろんのこと、「綾子舞」をはじめとした無形財にも注力し、地域の文化を地域でつないでいく人材、さらには、留学生等を中心に、世界へ柏崎を発信していく人材を育成します。
また、歴史的文化のみならず、アニメや音楽等のコンテンツ文化の発展に寄与する人材も育成します。

農業の持続的発展こそ、この地域の発展に直結します。
そして、その農業は今、大きく変わろうとしています。1次産業としてだけではなく、加工・流通まで含めた6次産業化がその発展の鍵とされています。
この分野では新産業として注目されるアグリ・フードビジネスを学び、これを活用した地域活性化に貢献できる人材を育成します。

市民のスポーツ参加だけでなく、総合的なスポーツ振興を図り、それを地域振興につなげて活躍できる人材を育成します。
水球をはじめとした地域の重点種目に対し、競技者はもちろん、観戦を促す仕組みを構築します。そこから、スポーツを総合的に支える仕組み作りと、そのための人材を育成し、他に類をみないスポーツ振興地域を作り上げることに貢献します。

柏崎地域の観光資源は豊富にあります。これを活かした観光ビジネスは、地域活性化に非常に重要です。そして、現代では、「ご当地グルメ探索」、「祭りへの参加」、「農村体験」、「ブルーツーリズム」、「グリーンツーリズム」、「離島体験」、「工場見学」などの参加型の観光が注目されています。
環境資源を最大限活用し、そうした参加型コンテンツを創出しつつ、地域外からの観光需要につなげることができる人材を育成します。



2. 地域教育の6本柱

共通

- ▶ 全コース、地元産業界が担う科目を設定！
- ▶ 全授業がプロジェクト型学修授業！
- ▶ 全コース、1年次から地域ゼミ必修！ 1, 2年次は地域理解ゼミ／3, 4年次は地域活性ゼミ！
- ▶ 地域関連の全授業、テーマは実際の柏崎の課題！
- ▶ 全ゼミナール、発表会は地域企業等の地域関係者、学生保護者を招いて実施！
- ▶ 全コース、授業の大半はフィールドワーク！



2. 地域教育の6本柱

地域産業・経済

地域活性化の基盤は「**経済**」であり、それを支えているのは**地域固有の産業**です。

このコースでは、基本的な経済学と経営学の知識を基に、今日の地域経済の在り方と柏崎の産業を学びます。

これらを、地元企業と連携した教育を実施し、地元ビジネスセクターで活躍する人材を育成するとともに、新しく企業を興し、創造的な価値を生み出す起業家の育成にも力を入れます。

柏崎に本拠を構える企業、製造等の拠点を構える企業は多数あります。それら地域固有企業と協働で、地域にとって必要なビジネスパーソンを育成します。

就業体験等を通じ、地域課題の解決に自ら起業してチャレンジする人材も育成します。

また、就職支援の充実による本学の高い就職率を、今後はより地域企業へ従事する割合を高めていきます。

新潟産業大学は
就職率100%!!
※2014～2017年実績



地元企業

2. 地域教育の6本柱

地域農業・6次産業

柏崎の農業は、高齢化と後継者不足に喘いでいるのが実情です。

このコースでは、そうした現状を踏まえ、IoT活用や6次産業など最新の農業活性化策を学ぶとともに、**柏崎の伝統農法や伝統野菜**にも着目し、若い人にとって魅力的な農業、そして、アグリ・フードビジネスを目指します。

さらに、グローバルな視点も加えながら、**柏崎の農業の固有性を最新の方法で生かし**、地域を元氣にする人材を育成します。



季節労働である農業は、繁忙期における人手不足は全国的な課題です。特に、高齢化・後継者不足の柏崎においては、最重要課題とも言えます。そこで、フィールドワーク・就業体験の一環で、学生が教育として繁忙期に農家の支援をします。
例えば、高柳地区での夏期・冬期のシーズンゼミナールを開講します。

本学の学食で使用する食材を、地域生産者から仕入れます。

生産者の説明とともに、地域農業についての説明資料も学食に掲示します。

学問として農業を学ぶだけでなく、実践的に体験をすることはもちろん、

「実際に農作物がどのように最終消費者のもとへ届いて消費されるのか」ということを体感し、そこから新しいアイデアを生む土壤とします。

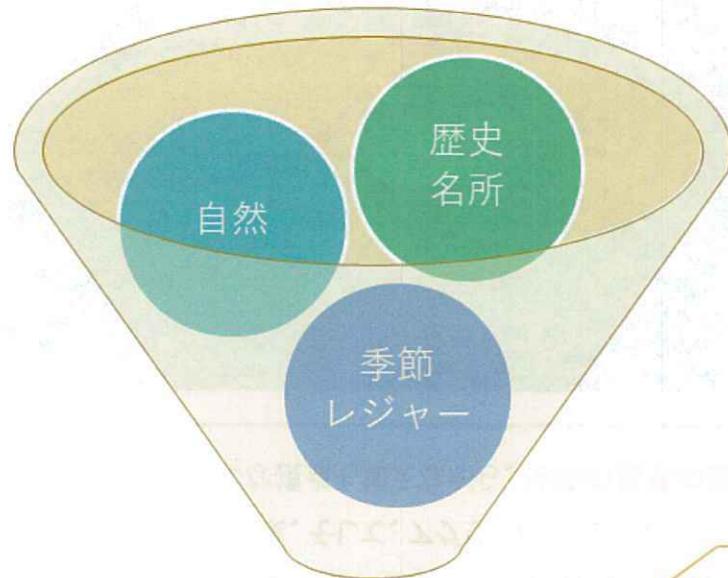
同時に、大学運営と地域農業が互いに必要とされる協働関係を構築します。



2. 地域教育の6本柱

地域観光・レジャー

観光立国は先進国の条件のひとつであり、日本も実現しつつあります。そして、観光立国の進展は、各地の**地域観光**にかかっています。ただし、現代の観光・レジャーは、「モノ」より「コト」です。しかし、単に参加型のコンテンツを作るだけでは十分ではありません。地域の観光資源を再発見し、それを活用して、来訪者が何を体験できるのか、それは**どれだけ価値あることか**、そしてそれは柏崎市でなければならない十分な理由があるか、こうした問いに答えることができる観光学を実践し、真の柏崎の地域観光人材を育成します。



柏崎体験

地元の観光協会および行政とも協働し、
具体的な観光教育プログラムを構築します。
同時に、観光資源開発および柏崎の魅力
発信を担い、実際に観光ビジネスでの就業
体験や観光ボランティアとして学生が活躍
できる場を構築します。



冬期観光資源の開発をプロジェクト学習する「地域活性化ゼミナール」を開講します。
また、高柳、谷根、笠島地区での柏崎体験プログラムを実施します。
柏崎の「再発見」「価値創出」「アピール」の一連のフローを実践できる人材を育成をするとともに、
このフローを地域の人たちと協働で実践していきます。

2. 地域教育の6本柱

地域スポーツ・健康

地域のスポーツ振興を担うエンジンとして、本学が機能します。

市民スポーツの活性化というと、従来は、行政が「場」を作り、市民が参加して、健康増進や市民交流を促すことが主流ですが、本学の考えるスポーツ振興は、スポーツを「する」「観る」「支える」の3要素に分解してとらえ、すべての要素を活性化させていくことを目的とします。

そうした培った知見をもとに教育し、真のスポーツ振興に寄与できる人材を育成します。

地域の住民が広くスポーツに参加するための「場」を創出する必要があります。行政と連携しながら、実行委員等に学生を参加させ、市民スポーツイベントの企画、運営を担います。一方、スポーツボランティア等に求められるのは単なるガイドではありません。あらゆる事態に対して適切に対応できる能力です。これらを理解して「支える」を実行します。



地域住民が広くスポーツに参加できるように、本学のスポーツ教育コンテンツを開放します。一部の講座には、市民の参加を可能とします。また、学生には、地域のスポーツイベントへの一定参加を義務付けます。さらに、大学施設の開放をし、日頃からスポーツに親しむ土壤醸成を支援します。

プロアマ問わず、スポーツにとって「観る」要素は極めて重要です。「観る」の形式は、友人家族や知人が参加するスポーツを応援する、興味を持って純粋に観戦する、子供たちに見せる等、とても幅広いです。競技者も、観る人がいるから頑張れることも多いです。本学は、学生に積極的な観戦、応援を促します。また、学生応援団に、市民の参加も開放します。さらに、刈羽村の「ラピカ」との共同観戦ツアーを企画します。

2. 地域教育の6本柱

地域文化・コミュニティ

地域への「誇りと愛着」の深さは、その地域の文化の豊かさに比例します。同時に、豊かな文化への確かな理解も必要です。

そして、誇りと愛着を持った地域文化を様々な形でアウトプットすることで、地域の価値向上と振興につなげます。

ただし、単に歴史的価値、文化的価値の再発見ではなく、それに触れる今日の人々にとっての価値創出をしてこそ、文化の振興になります。

柏崎の豊かで固有の伝統文化を歴史や民俗を通して深く学び、その魅力を今日の地域振興へつながることができる人材を育成します。



人から人へつないでいく文化を大事にし、授業はフィールドワークを原則とします。また、そうやって学生へつながった文化を、他地域へ発信するための方策も、自ら考え実践していく教育を行います。そして、観光行事等において、今日の文化の担い手として発信する場を構築します。



他地域の学生、とりわけ留学生が、柏崎文化に触れる機会を多く創出します。

彼らが地域の伝統文化へ理解を深めるとともに、在学中にその文化の担い手として活動できるコミュニティを構築します。それにより、世界に柏崎文化を発信する人材を育成します。



2. 地域教育の6本柱

地域行政・まちづくり

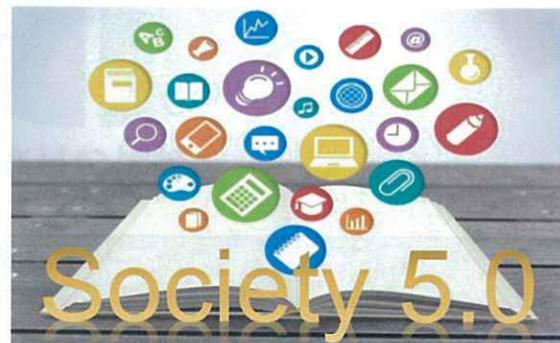
人口減少社会の到来によって、地方都市は危機を迎えていますが、同時に「第4次産業革命」や「ソサエティ5.0」等をチャンスと捉えることもできます。そのチャンスを生かす上で、地域の政治・行政は大きな役割を期待されています。

こうした大局的な視点を持ちつつ、柏崎が抱える固有の課題をしっかりと見据え、地道で具体的な地域行政を実践的に学びます。こうして、地元産業界や大学と連携しつつ、市民の負託に応え、パブリックセクターで能力を発揮する人材を育成します。



柏崎市が実際に抱える課題を題材として、授業の中で協働で解決の糸口を探します。
学生にとっても、自身が住む、あるいは学ぶ街で、今まさに起きている課題だからこそ、教育という枠を超えた臨場感を持ち、貴重な体験につながります。
こうした教育体験を通じ、将来の行政人、社会起業家を育成します。

行政活動の事業の一環で、課題を発見して解決する能力を持った人材を育成します。
授業のフィールドワークでは、こうした現場に積極的に出ていき、課題を聞き出し、協働で解決策を検討します。



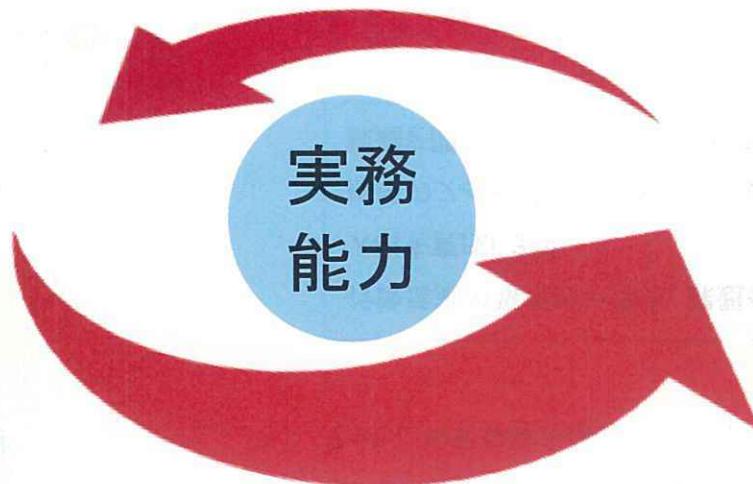
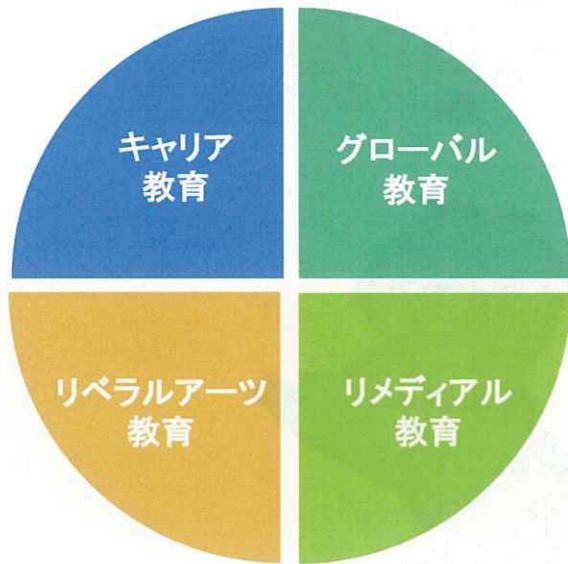
あらゆる知識や技術を地域社会、行政に生かせるように、多様な能力と意識を醸成する教育を実践します。



3. 6本柱+1

学生へのプラスワン価値

教育の体幹



実践的な能力育成

本学は地域社会への貢献を唯一の目的とし、それに応じた教育を実践します。

しかし、地域教育という専門性だけが、大学教育に求められているわけではなく、
きちんとした基礎教育の上に、専門教育が成り立ちます。

そこで、基礎教育の効果測定と、実際に社会に出た際に実践的に役立つものとして、

大学の推奨する資格を、全学生が必ず卒業までに複数取得することを義務付けます。

また、資格ではないものの、TOEICや公務員講座等、実践的な対策講座も設置します。

地域教育に特化しながら、有用な能力を育成する実践教育大学としてのプラスワンを実施します。



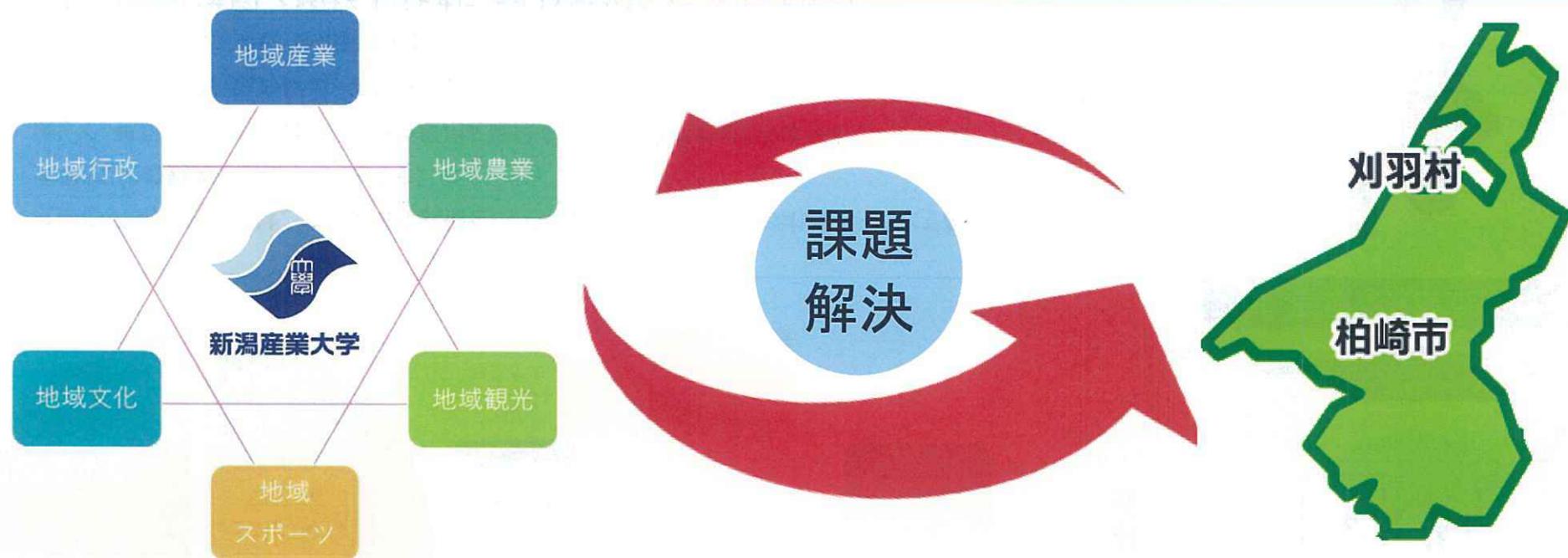
【資格取得支援】

- 簿記検定
- 英検、日商ビジネス英検
- 秘書検定
- 中小企業診断士
- 学芸員、司書
- MOS検定

【実践教育課外講座】

- 公務員試験対策講座
- TOEIC受験対策講座
- TOEFL受験対策講座

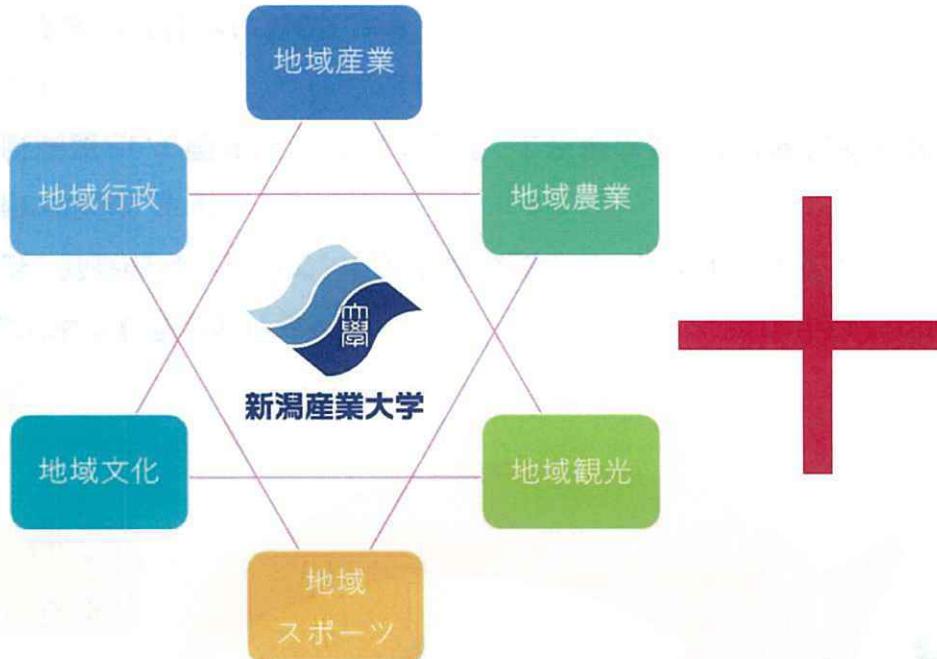
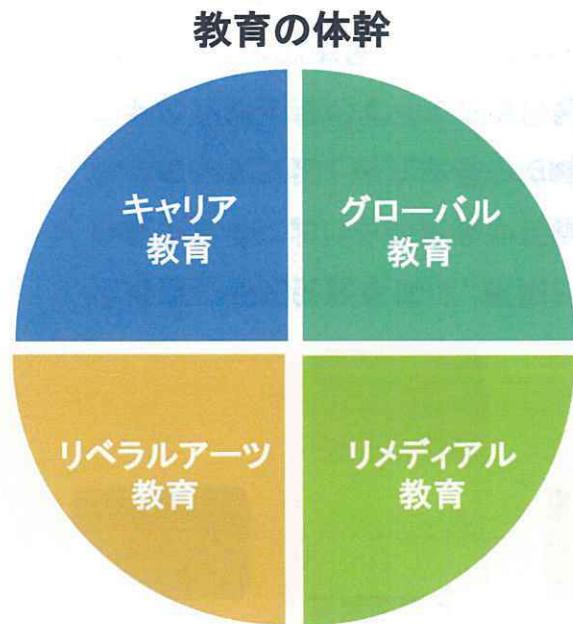
地域へのプラスワン価値



- 柏崎市の研究委託事業は、原則として本学が引き受けます！
- 市政運営等における委員会や審議会、審査会等において、本学教員の関与を一層強化します！
- 本学の研究資源と研究成果を柏崎市で活用します！
- 本学の開講授業のすべてを市民聴講講座として開放し、同時に、夜間、土日等含め、公開授業や公開講座等を増やします！
- 「新潟産業大学市民講座」を復活させます！
- 各地区的コミセンと連携協定を結び、地域の活性化に貢献します！
- 市民の生涯学習ニーズに応え、世代間格差、地域間格差の解消に貢献します！
- 大正大学と本学との連携協定に基づき、巣鴨商店街と柏崎東本町商店街やニコニコ通り商店街と連携し、相互に市場を開きます！
- 柏崎市のシティセールス事業に参加し、柏崎市を発信します！

3. 6本柱+1

経営面のプラスワン



全学
体制

聖域なき改革断行

今回のVisionの目的は、本学が原点回帰をしつつ、時代に合わせて生まれ変わることであり、大学としての魅力を創出することです。
決して、誰かの権利を保護することや雇用を確保することが目的ではありません。
したがって、大学の魅力創出、学生への価値還元、社会への貢献を唯一の目的とし、それ以外は聖域を設けず、たとえ痛みを伴ってでも、改革を断行します。
今回のVisionに共感して輝ける人材と共に、新しい新潟産業大学を作り上げます。
Visionに共感できない教職員や、残念ながら活躍の場がなくなる教職員には、退場を促します。



高大接続のプラスワン



相乗効果

高等学校は、原則として**地域の生徒が通学して学ぶ機関**です。

したがって、柏崎市内の高校と連携すること、あるいは入学してもらうことは、地域振興において極めて重要な要素です。

そこで、以下の施策を実行します。

- (1) 市内の高校からの入学枠を設定し、本学の地域教育に賛同する地元の高校生は、優先的に入学できるようにします！
- (2) 本学の強化指定部と市内の高校の部活動とで合同練習を実施します！大会への共同応援ツアーも企画します！
- (3) 現在、附属高校と実施しているブリッジプログラムをさらに発展させ、ステップアップ科目の設定を附属校以外にも広げます！
- (4) 附属高校のオープンスクールと本学のオープンキャンパスを合同企画で実施します！
- (5) 市内の高校と合同で、市外へのアピールオープンキャンパス＆スクールを実施します！
- (6) 市内の高校生と本学学生とで、柏崎キャラバン隊を結成し、柏崎の魅力発信を推進します！

3. 6本柱+1(∞)

学生生活プラス「無限大」

地域ボランティア



地域でアルバイト



地域に住む



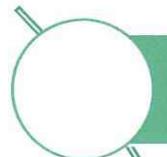
地域文化・産業体験



(3) 教育方法

1. 特徴ある教育方法

1年次からゼミナールを必修！ 徹底した少人数教育を取り入れます！



入学時から全員少人数制ゼミ必修！ 1,2年次=地域理解ゼミ／3,4年次=地域活性ゼミ

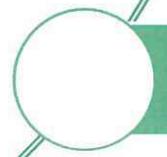
4年間全授業で5人制グループワーク実施！

課外活動も5人制を徹底し、本学のデフォルトに！

キャリア教育、企業研究もグループワーク！

英語教育も少人数グループでの会話重視！

グローバル教育は、留学生と少人数グループで！



グループ結成→ディスカッション→「発表」を徹底！

2. 少人数制授業の徹底

1年次から地域理解ゼミナールを必修！徹底した少人数教育を取り入れます！



少人数制

大人数制



実践力を養う！

少人数制教育の特徴は「実践力」の養成。

一人が授業に占める割合が大きいため、特にフィールドワークに出れば、自分くらい、ちょっとくらい、という斜に構えた態度は通用しません。それだけ深い探求、理解につながります。単純な講義であっても、参加感が大きくなり、主体性を育みます。

また、本学では地域との交流を一番の特徴とするため、小さな地域コミュニティと密な交流をする際にも、少人数制は最適です。

常に主体的で具体的な探求を求められる少人数制教育は、「**現場**」で直ぐに役に立つ**実践力を養成します！**

多様性を養う！

大人数制の特徴は「多様性」の養成。

同じ題材に大勢で取り組むことで、一人では気づけなかった視点に気づいたり、文化や環境が違う人の意見によって、自身の常識を疑うことから新たな発見につながります。

また、大人数だと自分の意見を発表する機会は少なくなりますが、密度は高くなります。単純にフィードバックの視点が多いだけでなく、必ずしも気心の知れた仲間ばかりではないため、厳しい意見も覚悟しないといけないからです。そうして**「大局的」な視点と多様性を養成します！**

大学全体としては、地元出身の学生を中心としながら、留学生や他地域からの学生を取り込んだ多様性を生み出します。

そして、その多様性を反映できるよう、**大人数制の特徴を生かしたリベラルアーツ講座を設定します。**

一方で、大部分は、**本学の目指す教育を実践するため、少人数制教育を徹底します！**

3. 特徴ある授業

入学から卒業まで、5人グループ結成！いつもどこでも。

少人数制教育を徹底するため、「プロジェクト型学修」を取り入れます。

本学在学中は、授業はもちろん、それ以外の活動においても、常に学生が主体的に取り組むテーマを与え続けます。さらに、自ら課題を発見した場合は、それを提案できる仕組みを構築します。そして、取り組むべきテーマが見つかったら、すぐに5人グループを結成し、グループ単位で課題の解決のための調査、探求、ディスカッションをします。また、必ずグループのディスカッション結果を発表する機会を設けます。それにより、ディスカッションがブレーンストーミングのレベルから脱却し、実効性のある実践的な内容にまで昇華されることを期待します。これを4年間を通じて徹底することで、自ら課題を発見する能力／自ら課題に取り組む意欲／自ら他人へ働きかける能力／自ら発信する能力／自らコミュニケーションを取る能力／自ら成果を出す能力／自らへの批評を基に次のステップへ進む能力を養います。他に類を見ない徹底したプロジェクト型学修で、卒業時には、日本人が弱いとされるディスカッションやプレゼンの能力を飛躍的に伸ばし、社会で実践的に活躍できる人材になります。



グループ結成

- ・課題を発見して、全員で共有する
- ・誰がいつまでに何をやるのか決める



グループワーク

- ・担当者が解決案をプレゼン
- ・それぞれの意見交換



プレゼン・講評

- ・解決のための最終協議
- ・アクションプランの策定

（4）ガバナンス／マネジメント改革
（5）組織変更／再編成
（6）組織文化の刷新

(4) ガバナンス／マネジメント改革

1. 体制／組織再構築

大学執行体制の強化と地域連携の推進体制強化

学長の権限強化と副学長制

「Vision2020」を推進し、確実に実行するためには、強いリーダーシップが必要です。

同時に、関係者の意見を広く聞き、多様なアイデアを集めるとともに、関係者の理解と協力を得る必要があります。

つまり、アイデアはボトムアップで、決断・実行はトップダウンで行うことを目指します。

そのために、以下の施策を実行します。

- 大学運営に関して学内に分散した権限を整理・集約し、学長の権限を明確にします。
- 分野、改革施策別に担当副学長を置き、担当分野の権限を明確にして委譲することで、機動的な体制にします。
- 学長と担当副学長および事務局主要メンバーで定期的な執行会議を開催し、今回の改革を最重要議題として戦略決定の場とします。
- 担当副学長は、担当分野の現場の意見を集約し、改革の進捗を確認し、未来への戦略案を立案します。



地域連携推進室の新設

地域実践教育大学として「Vision2020」を実現するにあたり、その責任セクションとして、「地域連携推進室」を設置します。

学長直下のセクションとして、全学横断型の地域連携戦略・施策を策定し、実践まで担います。

地域連携センターがすでに存在しますが、本学が今後推し進める地域連携策は、センターの活動にとどまらず、

大学の活動全体に及びます。したがって、地域連携センターよりも上位機関として位置づけ、

地域連携に関する責任と権限を集約します。

【地域連携戦略全体の主管】

●Mission I : 改革KPIの設定と遂行

●Mission II : 地域連携の事務処理



- ▷ 地域連携センターの戦略
- ▷ 地域高大接続戦略
- ▷ 地域連携入試戦略
- ▷ 地域連携就職戦略
- ▷ 地域連携スポーツ戦略
- ▷ 地域連携学生支援
- ▷ 地域連携ボランティア戦略
- ▷ 地域連携授業支援
- ▷ 地域連携課外活動戦略
- etc.

「Vision 2020」の実現を目的とした予算制度の構築



「Vision 2020」実現を目的とし、そこから逆算して予算編成をし、実際の執行も管理していく仕組みを構築します。単なるコストカットや無理な入学生の確保に走るのではなく、Visionを基にした選択と集中を実行することで、結果的にコストの圧縮を実現します。

すでに、かなりのコスト圧縮を実現していますが、奨学費や施設設備への投資等は、その目的と効果を検証し、必要であれば、場合によっては今まで以上の投資をします。

同時に、「Vision 2020」実現により魅力が改めて創出され、そのことにより、安定的に入学者を確保して収入の安定化につなげます。

Vision達成のための厳格な編成

前年踏襲ではなく、ゼロからすべての予算を編成します。
担当副学長の下、Vision達成のための各事業計画を策定し、そこに必要な費用なのかどうかジャッジをして、予算を組みます。
たとえ少額のものであっても、Vision達成に寄与せず、その他の目的もあいまいなもの
は一切認めません。
そうすることで、費用を「コスト」ではなく常に「投資」として機能させます。

Vision達成のための柔軟な執行

現代社会の変化は非常に速いです。したがって、前年に計画した事業が、期中で変更する必要に迫られることもあります。そのような時、予算に縛られ過ぎて効果のない事業を盲目的に行いながら予算を執行することのないよう、常に事業計画の実行段階で再チェックをしながら柔軟に対応します。
逆に、当初予定のなかった事業がVision達成に必要となる場合もあります。その場合も予算がないとあきらめず、その手当てができるように学長予算を増額します。

Vision達成のための最適なワークフロー

上記のような予算編成と執行を、制度だけでなく、実効性のある運用をするためには、責任と権限、およびワークフローの明確化が重要です。
つまり、副学長制によって最終責任と権限が明確化するので、途中のレポートラインも明確にします。
大学現場にありがちな、「委員会」による責任の所在のあいまい化が、本学にもありました。それを是正し、誰が何をジャッジメントしてディシジョンするのかを明確にします。
それにより、何が決裁事項で何が報告事項かを、個人で的確に判断し、計画を遂行できる体制を構築します。

